



大学入試の不合格通知をもらったとき、自分はこの3年間一体何をしていたのだ、と思わずにはいられなかった。何もしていないからだ。体育祭や文化祭、友達と大騒ぎして遊んだことなどは数多く、しかも鮮明に記憶に残っているが、血のにじむ思いで勉強したという記憶は全くない。予習復習はいうまでもなく、授業中でさえも居眠りや内職、ただ黒板に書かれていることを写すなど、誰もが不合格体験記に書いているようなことを自分も3年間続けてきた。挙げ句の果ては、遅刻や欠席など、考えるとどうしようもなく情けない気持ちになるだけである。本当にいやになる。まず自分にはまじめな生活態度などなかった。規律ある日々を送るなんて、受験生であるなしに関わらず人間なら誰だってすべきことであるのに、それが自分は受験直前になってまでも実践できなかった。規則正しい生活は合格の十分条件であるということが改めて思い出される。**誠実に生きていない者には成功はあり得ない。**

次に**謙虚な気持ちを持たなかったことである。**父母や教師の言葉に対しても背中を向けて、自分には自分のやり方があるんだ、ふざけんな、といつも思っていた。周りから見れば、そして自分自身、今になってみるとふざけているのは自分以外の何者でもなかった。が、他人から何か言われて、自分の生活、学習態度を顧みて、確かにこのままではいけない、勉強しなきゃ、と思うには思うのだが、実行に移すことがほとんどなかった。おもえば、あれこれとこうしたら良いのでは、と考えても実行することはまずなかった。これも間違っている。「言う前にやれ」まさにそうなのである。

さらに、自分には勉強はできるという全く根拠のないおごりがあった。人より少ない学習時間でも人の上を行けるはずだ、自分は頭が良いのだと、絶対心の中にそんな思いがあった。本当に本当に馬鹿だったと思う。**やるべきことはやらず、したいことだけする。最低の高校生活だった。**何もしてこなかった自分を本当に恥ずかしいと思う。

でもこれからは違うんだ、ということをや予備校と、そして自分自身に誓いたい。大学進学希望を来年こそ成就させるためにも、朝早く起き、規律ある生活をし、人の言葉に謙虚な気持ちで接し、おごることももうしない。自分のため、浪人することを許してくださった両親のためにも、1日も怠ることなく、不断の努力をしていくことを固く決意する。

これは、大学入試に失敗し浪人することになった生徒が、予備校に入校した直後に書いた「不合格体験記」である。いよいよ、今日が平成20年度2年生の終業式である。ということは、明日からもう3年生だと考えてもいい。君たちは少なくとも1年以内には受験をしていくわけだから、その受験で成功を勝ち取るためにも上記の体験記を熟読してほしい。そして、よく考えて欲しい。**受験は頭がよい者だけが勝つわけではない。頑張った(努力した)者が勝つのである。**

そのことを考えるとこの春休み中、遊んでいる暇などない。部活動をしているものは、その両立を十分に考えて、準備にかかって欲しい。誰の人生でもない。君たちの人生である。君たちが本気にならなければ誰がなるのだろうか。甘える時期はもう終わった。あと1年本当に頑張ろう。

2年学年主任 H.Y

## 行事予定表 ( 3 / 1 4 ~ 3 / 2 7、4 / 8 , 9 )

月	日	曜	行 事 予 定	備 考
	20	金	秋分の日	
	21	土		
	22	日		
	23	月	春季特別学習会	8:10着席完了 全員受講
	24	火	新入生テスト、オリエンテーション	在校生は休み
	25	水	春季特別学習会	8:10着席完了 全員受講
	26	木	春季特別学習会	8:10着席完了 全員受講
	27	金	離任式	8:20着席完了
4	8	水	大清掃、服装容儀指導、新任式、始業式、全校集会、学年集会、LHR	8:20着席完了
	9	木	実力養成考査、大清掃、入学式予行	8:20着席完了